

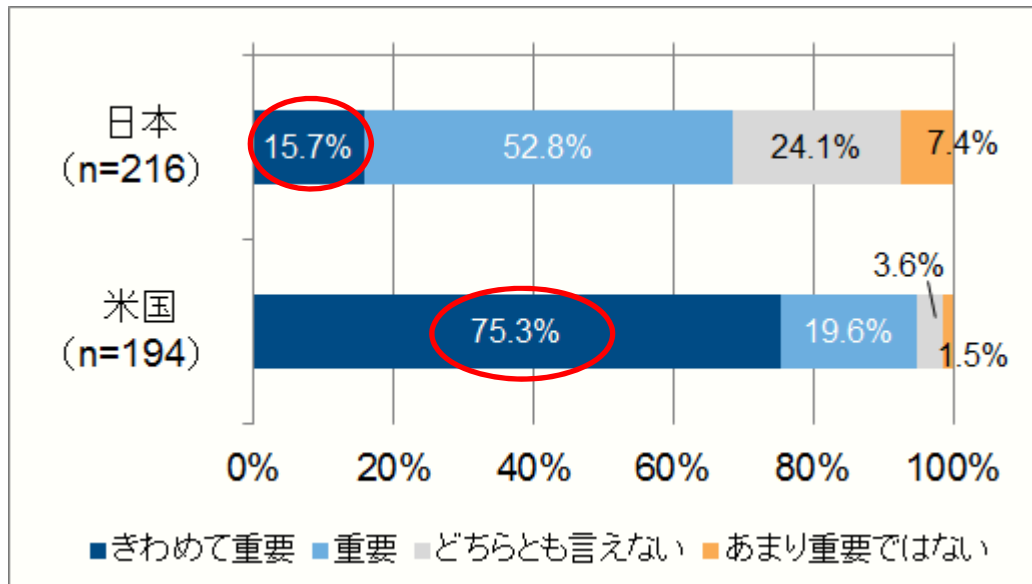
# ITマネジメント・ニュースレター

## Vol. 1

一般社団法人 電子情報技術産業協会 (JEITA) のソリューションサービス事業委員会 (委員長 富士通執行役員 古田 英範) は、IDCジャパン株式会社と共同で「ITを活用した経営に対する日米企業の相違分析」を実施しました。

それによると、日本と米国で、IT/情報システム投資の重要性の認識が大きく異なる、とのこと。回答者は経営者、およびIT部門以外 (事業部、営業、マーケティング、経営企画) のマネージャー職以上。

### ITを活用した経営に対する日米企業の相違分析 IT/情報システム投資の重要性



出典: JEITA/IDC Japan

## 米国では「きわめて重要」が75%に対して日本は16% !

IT/情報投資は「情報」をうまく使うためのもの。日本と米国では「情報」の重要性が違う？日本と米国で情報活用の改善余地が違う？そうとも思えません。

日本では「きわめて重要」よりも「重要」が多いのですが、これは何を意味しているのか？

「ITは重要」という風潮が一般的にあるので重要性を否定まではできないが、「きわめて重要」というほど重要性を認識していない、のでしょうか。経営者が強いビジョンを持たないで、本当に革新的なビジネス変革を起こせるのかどうか、このままで日本の会社は大丈夫なのか。不安を感じる結果です。